日経アーキテクチャー

NIKKEI ARCHITECTURE

2000 5-1

2000年5月1日発行（毎月1回1日発行）発行人 日経BP社 1976年4月23日第三種郵便物認可

●特集
住宅品質確保のための心がまえ

●トピックス
「電子レンジ」効果で建物が燃える

ニュース Projects 建築

沖縄県平和祈念資料館

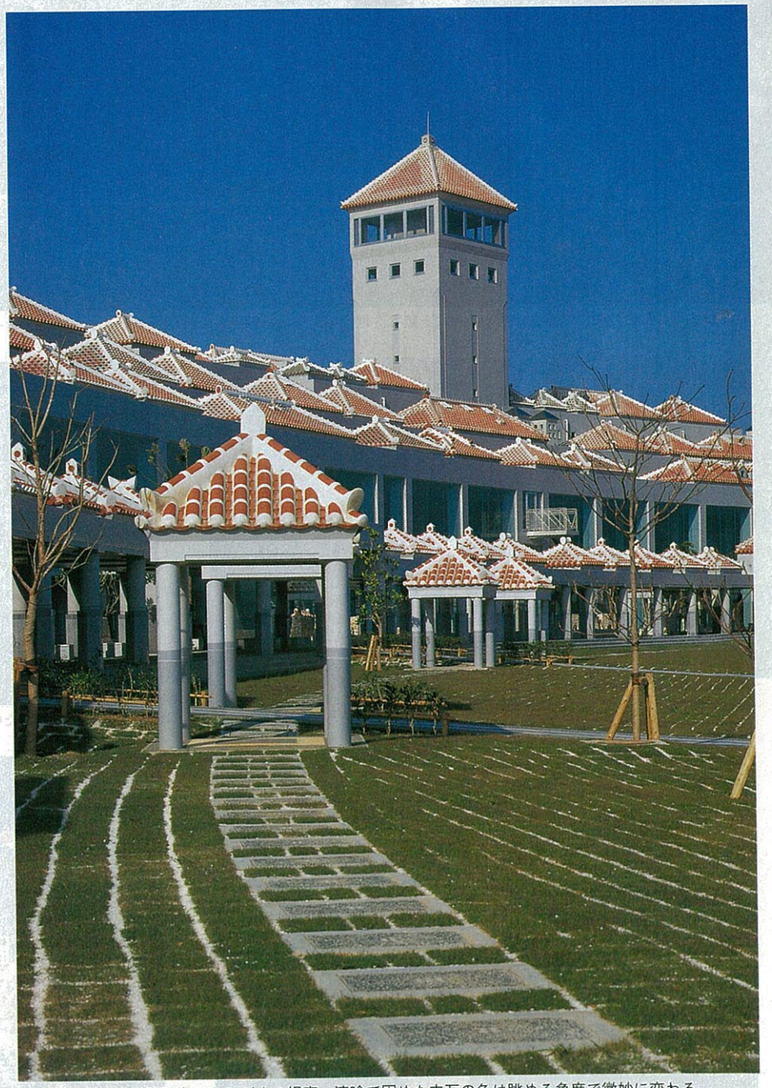
設計：福村俊治＋team DREAM

Okinawa Prefectural Peace Memorial Museum / Architect : Shunji Fukumura・team DREAM

（写真：三島 叡）

案内図

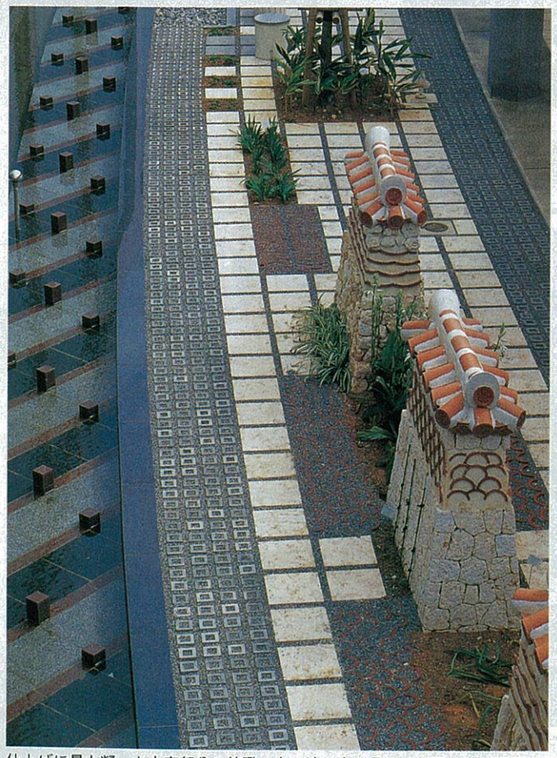
赤瓦屋根はコンクリートスラブ上に載り，形は少しずつ異なる。建物は「平和の火」に向かう径線を縦，「火」を中心とする円弧を横の軸線として計画された。中央のトップライト下で半径は150.3mになる



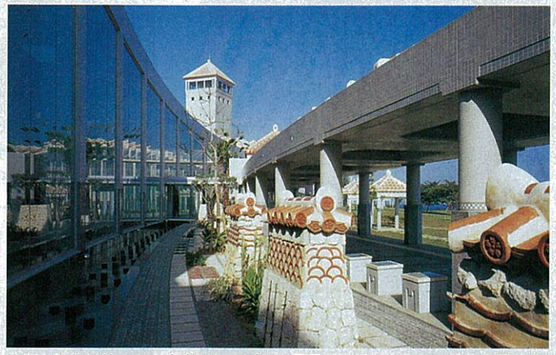
展望階のある塔は設計者のオリジナル提案。漆喰で固めた赤瓦の色は眺める角度で微妙に変わる

◀「平和の礎」越しの南面。東西方向の建物長さは217mに及ぶ。手前右は旧資料館の平瓦葺き屋根

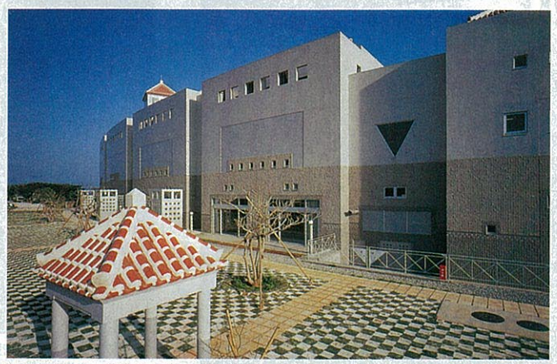
柱廊から平和の礎の中心にある「平和の火」を望む。建物の外壁には細目地の47mm角モザイクタイルを貼って塩害対策を施した。色調も抑えている



仕上げに最も凝った中庭部分の俯瞰。左は池。白く見える敷石は琉球石灰岩



柱廊と建物に挟まれた中庭。ヒンプンの周囲に沖縄に自生する植物を配した



建物北面。沖縄戦の兵器の残骸を展示する予定。周辺の公園整備が進行中だ

個性強い素材を用いながら自己主張を抑えた意匠に

「平和の礎（いしじ）の横にへんな建物を造ったら許さんからね！」——福村俊治氏は沖縄出身の義理の母からこう言われて目が覚めた。沖縄で知り合った設計者たちとチームを組み，新平和祈念資料館のエスキースコンペに参加した1996年のことだ。「平和を形にする」難しさに当惑し，造形論に頼って“かっこいい建物にしよう”とスケッチを重ねていた。そんなときの一喝。「建築の自己主張など許されない場所なんだ」と思いを新たにしたという。

沖縄本島南端の摩文仁（まぶに）の丘は，太平洋戦争末期，約90日間に及んだ沖縄戦が終焉を迎えた地だ。周辺には慰霊塔が建ち並び，95年には沖縄戦の戦没者23万6000人余の名前を刻んだ「平和の礎」が建立された。訪れる年配者の多くは口数少な。崖下に広がる海には今も人は立ち入らない。県民にとっては「聖地」ともいえる場所だ。

その平和の礎を一望する南斜面が，老朽化して手狭になった旧資料館（75年築，約1000m²）に替わる新資料館の敷地となった。福村氏は平和の礎と同心円に載るように建物を配置して求心性を高め，小さな赤瓦屋根や柱廊を連続させて外観を細かく分節化。周辺の景観に溶け込む控えめな表現を心がけた。

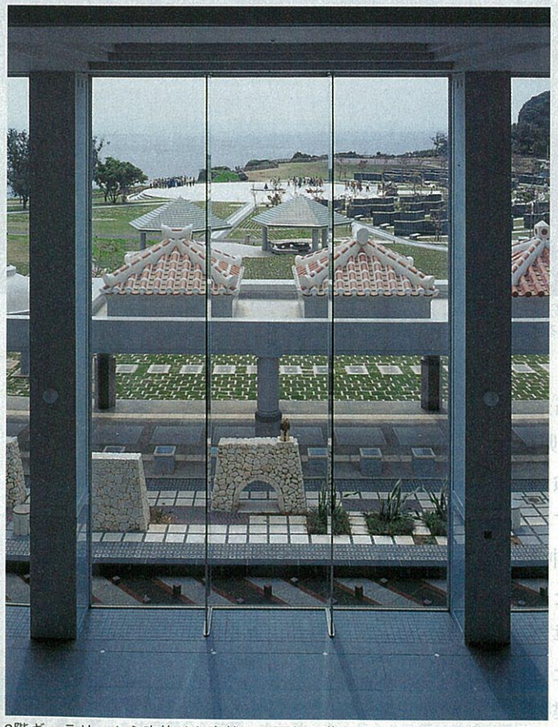
「半永久的な建物」を求めたコンペ（清家清委員長）では，昔の集落を思わせる赤瓦屋根の連なりと建物の配置，資料の保管や調査研究の将来の変化に対応できるプランが高く評価され，晴れて当選案となった。

ホール南側の回廊（1階部分）。赤瓦屋根のトップライトから光が降り注ぐ。来訪者の目線は開口部を通して自然に円弧の中心にある平和の礎と向かう。中庭側の3カ所からも回廊に自由に入ることができる

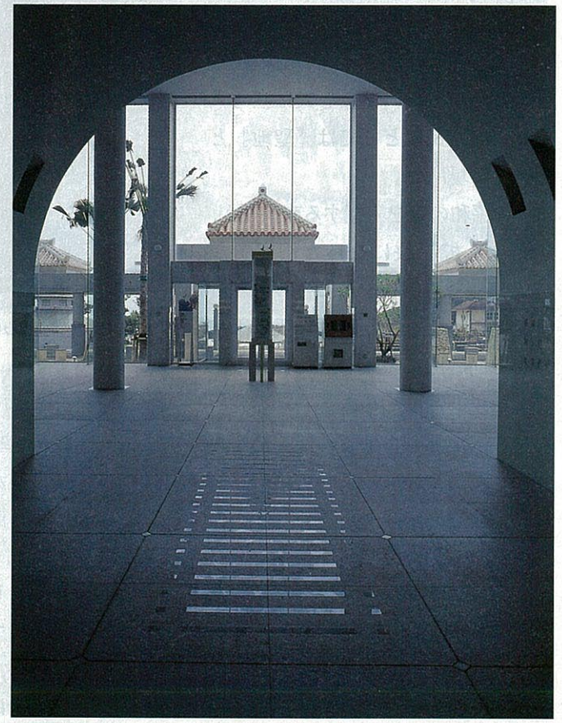
福村氏自身は滋賀県出身。「赤瓦のようにそれ自体が強く自己主張する素材は嫌い」と話す。それでも赤瓦を多用したのは，「沖縄だからこそできる形」を目指したからだ。コンペ後のプラン変更で単なる飾りとなった部分もあるが，たしかに赤瓦屋根のあるとなしでは建物のイメージは一変する。一方，水平線を強調したモザイクタイルの外壁と組み合わせ，赤瓦の強烈な個性を抑えて外観を軽快に見せる工夫も施している。

設計者があえて自己主張を抑えたこの建物は，「風土」との関係を常に問われてきた沖縄の建築デザイン模索の歴史に，新たなページを加えることになるだろうか。（村田 真）

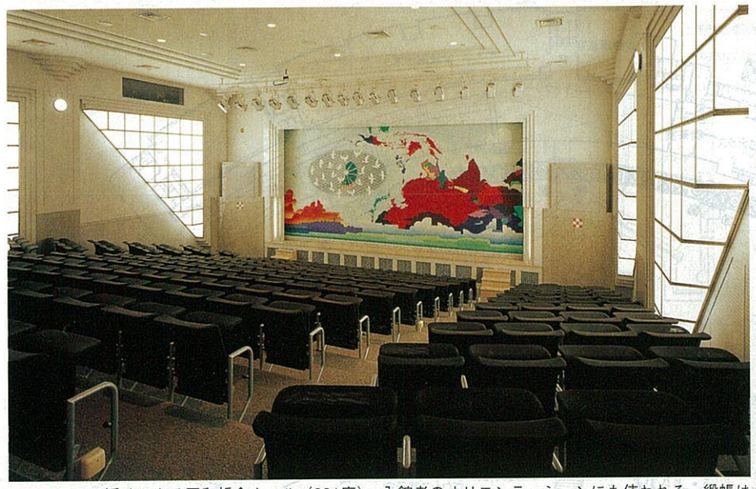
回廊から段状ホールとスロープ方向を見る。当初案では奥に見える情報ライブラリーや子供展示室などの機能は2階に，常設展示室が1階に配置されていた。県側の要請でこれを逆転させたため，建物の北側にある赤瓦屋根はトップライトやこう配天井の機能を失い，屋根飾りになった



2階ギャラリーから吹抜けと窓越しに平和の礎を望む。眺望を遮る青い屋根は，資料館の敷地外にあるトイレとあずまや



1階の平和祈念ホール脇の階段を背に南側を見る。南北方向の縦の軸線は北側に向かって広がっていくため，建物内には直角のグリッドは一つもない



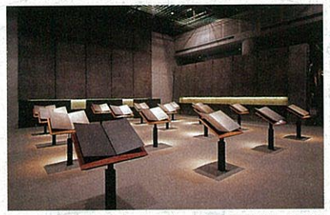
エントランス近くにある平和祈念ホール（231席）。入館者のオリエンテーションにも使われる。緞帳は沖縄を中心に南北を逆転させた世界地図

展示は別進行，工事は13工区

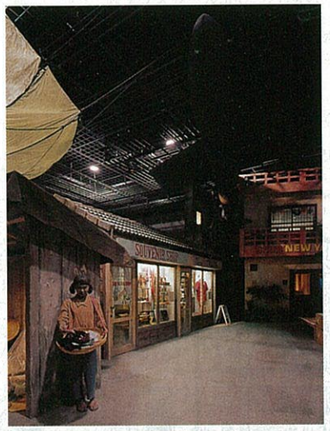
新平和祈念資料館の生みの親ともいえるのが「平和行政」を推進した大田昌秀前沖縄県知事。在任中に，平和の礎，国際平和研究所の設立とともに新資料館建設を構想した。当初の構想で旧資料館の数倍程度だった床面積は，「礎のロビー機能」（県土木建築部施設建築室の佐敷興昭室長）を持たせる要望などを取り入れた結果，コンペ時点で8倍，最終的には10倍に達した。

完成前に県政は稲嶺恵一現知事に交替し，日本兵による住民虐殺などを取り上げた展示内容の見直しをめぐる混乱も生じた。実際には見直しはなかったが，建築設計者は，展示規模を知らされないまま展示室を先行してつくることになった。

建設は起債による県の単独事業。施工は「県内業者に機会均等」（佐敷室長）という方針で，建築3，電気2，空調2，衛生・舞台音響・舞台機構・舞台照明・昇降機・浄化槽各1の合計13工区に分離発注された。これに対応するため建築設計チームは8人を工事監理でほぼ常駐させた。



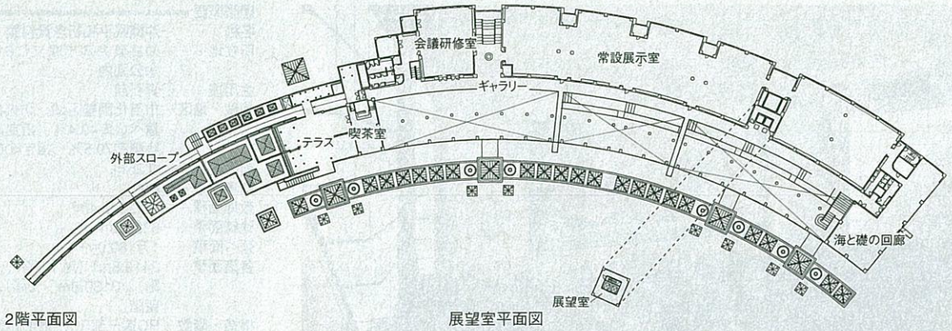
2階の常設展示室内にある第4展示室。沖縄戦の体験者による証言集を展示している。記述に見入ったまま，書見台の前で立ちつくす見学者も少なくない。館内でも最も厳粛な雰囲気が漂う空間だ



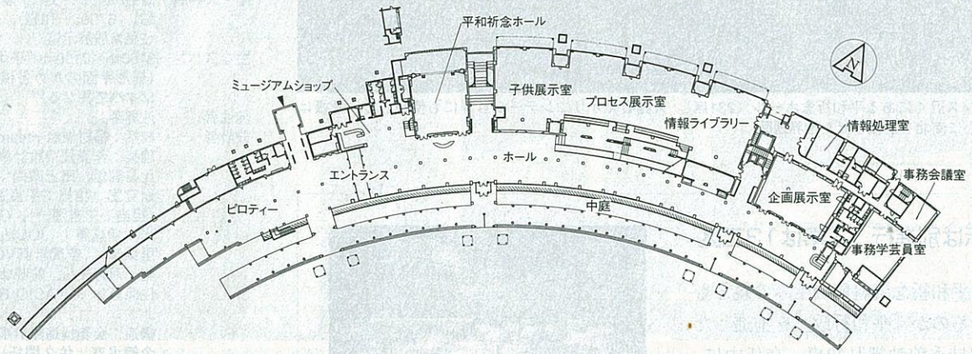
第5展示室。戦後の米国占領時代から95年の県民総決起集会に至るまでの沖縄の現代史を展示している。館内の展示は，建築設計とは別に96年に行われた展示設計プロポーザルの当選者である乃村工藝社が担当した

建築概要

名称――沖縄県平和祈念資料館
所在地――沖縄県糸満市摩文仁614-1，平和祈念公園内
主用途――資料館
地域・地区――市街化調整区域，防火指定なし
建ぺい率49.4%（指定70%）
容積率79.5%（指定400%）
前面道路――北25m
駐車台数――4台
敷地面積――1万2808.4m²
建築面積――6330.2m²
延べ面積――1万180.0m²
各階面積――2419.8m²（地下1階），4536.7m²（1階），3130.8m²（2階），92.7m²（展望階）
構造・階数――RC造一部PC，地下1階・地上2階
基礎――ラップルコンクリート併用ベタ基礎
高さ――最高高30.7m，軒高7.4m
階・天井高――階高6300mm（地下1階），5500mm（1階），6700mm（2階），天井高5900mm（2階常設展示室）
主なスパン――3100mm×3100mm（子供展示室前）（扇形平面のため各横軸線でスパンはすべて異なる）
発注者――沖縄県
設計者――総括：福村俊治＋team DREAM
建築：作真建築設計事務所（担当：比嘉憲信，田上政尚*），平良進建築研究室（担当：平良進），二條設計（担当：末吉淳一），GROUP24（担当：伊盛勝），JOU設計（担当：宮里乗彦），空間計画VOYAGER（担当：河野俊弘，前城功*，西谷陽二*，佐藤亘*，IGNACIO R. GALINDEZ, Jr*）
構造：金箱構造設計事務所（担当：金箱温春，佐久間拓），パス建築研究室（担当：塩真孝彰）
設備：Cai設備（担当：宮良洋三，楚南幸博，高良聡）
照明：LPA（担当：面手薫，稲葉裕）
サイン・緞帳・椅子：HILOデザイン研究所（担当：小畑廣永，小畑恂子）
造園：トロピカルプランニング（担当：佐々木慶二），トロピカルグリーン設計（担当：大竹岩男），沖縄緑化研究所（担当：小島裕）
*は元所員
工事監理者――総括：福村俊治＋team DREAM
建築：平良進建築研究室（担当：平良進），空間計画VOYAGER（担当：河野俊弘，前城功*，美濃祐央，新垣直*，友寄隆仁，比嘉裕隆，仲宗根司和）
構造：パス建築研究室（担当：塩真孝彰），金箱構造設計事務所（担当：金箱温春，佐久間拓）
設備：Cai設備（担当：宮良洋三，楚南幸博，高良聡）
照明：LPA（担当：稲葉裕）
サイン・緞帳・椅子：HILOデザイン研究所（担当：小畑廣永）
造園：沖縄緑化研究所（担当：小島裕）
施工者――建築：大米建設JV（第1工区，担当：久田清隆），国場組JV（第2工区，担当：玉城保），大城建設JV（第3工区，担当：金城勇）
電気：那覇電工JV（第1工区，担当：西江朝基），金城電気工事JV（第2工区，担当：喜友名聴）
空調：大宮設備JV（第1工区，担当：伊敷幸栄），琉球冷機JV（第2工区，担当：小嶺幸栄）
衛生：国場組JV（担当：古謝秀雄）

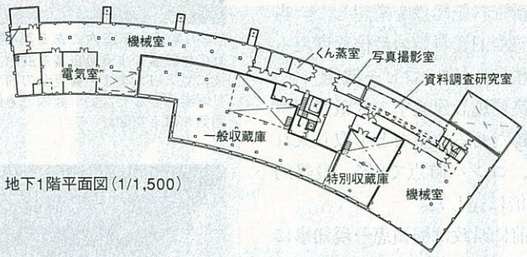


2階平面図　展望室平面図

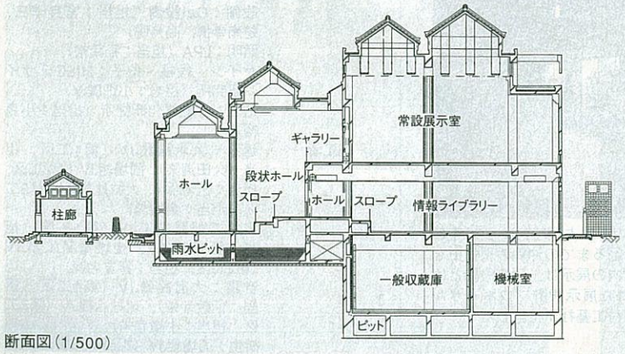


1階平面図(1/1,500)

建物各所に配置されたシーサー（魔除けの獅子）

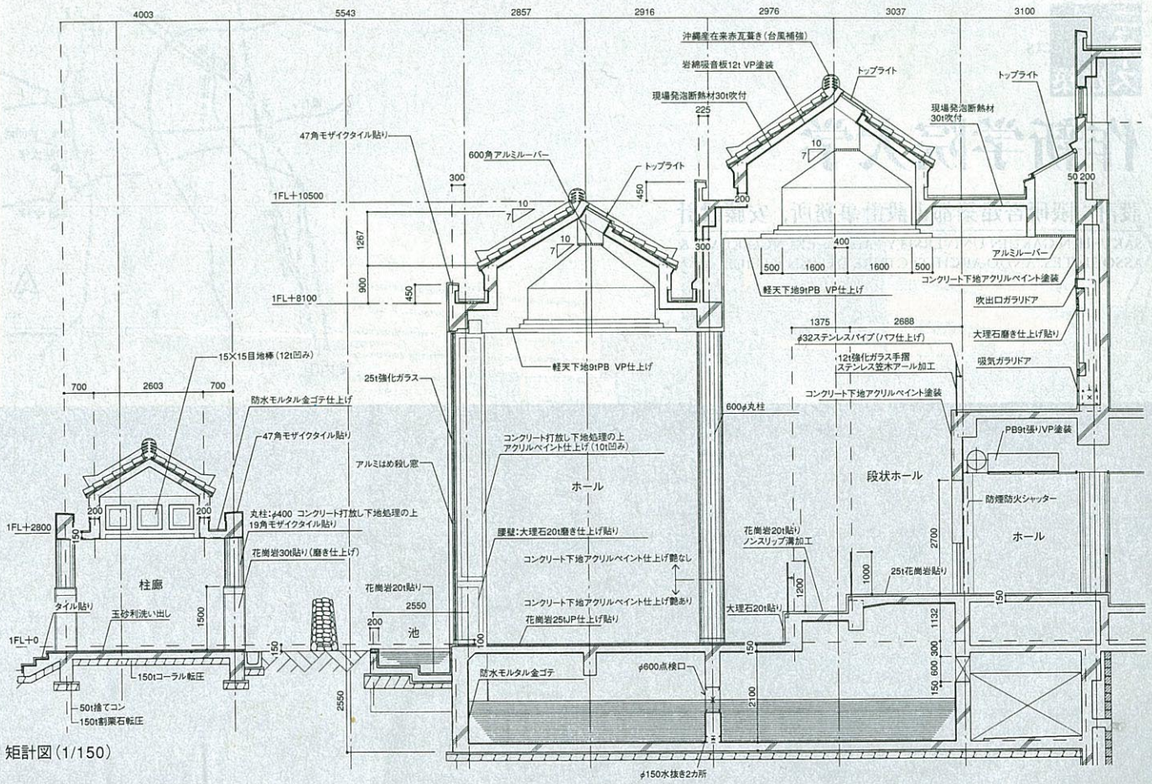


地下1階平面図(1/1,500)



断面図(1/500)

配置図(1/7,000)



矩計図(1/150)

その他：松下電器産業（舞台音響，担当：渡嘉敷宗彦），サンケン・エンジニアリング（舞台機構，担当：真栄田喜政），松村電機製作所（舞台照明，担当：上原康幸），沖縄日立（昇降機，担当：玉城勝巳），開邦工業（浄化槽，担当：名幸政光）

設計期間――1996年6月～97年3月
施工期間――1997年11月～99年6月
総工費――49億4221万円（展示関係・周辺整備関係を除く・消費税除く）
工費内訳――31億3425万円（建築），4億4814万円（電気），9億615万円（空調・衛生），1億4228万円（舞台），9345万円（昇降機），7550万円（浄化槽），1億4244万円（外構）
設計料――4171万円（基本設計，消費税除く）
1億1330万円（実施設計，同上）
工事監理料――9639万円（周辺整備関係を除く・消費税除く）

内部仕上げ

ホール――床：花崗岩25t石敷（インバラブラック）JP 一部磨き仕上
腰壁：大理石20t貼り（ビヤンコカララ）
壁：コンクリート打放し補修下地のうえAP
天井：軽天下地PB9t 一部岩綿吸音板VP 一部アルミルーバー
平和祈念ホール――床：モルタル下地 500角タイルカーペット 一部花崗岩25t敷
腰壁：有孔合板6tOSCL（裏側グラスウール50t） 一部大理石20t貼り
壁：PB9t下地のうえAP（一部有孔合板6t，一部岩綿吸音板15tAP，一部アクリル光壁）
天井：軽天下地PB9t VP，岩綿吸音板15t VP
子供展示室――床：モルタル下地 500角タイルカーペット 一部花崗岩25t敷
腰壁：大理石20t貼り
壁：PB12t下地のうえAP
天井：軽天下地木格子天井OP（裏側グラスウール50t），PB9tVP一部アクリル光天井（格子周囲）
海と礎の回廊――床：モルタル下地の上花崗岩25t（周囲），フェルト下地カーペット13t敷（中央部）
腰壁：大理石20t貼り
壁：PB12t下地のうえAP 一部大理石20t貼り
天井：軽天下地PB9t VP，岩綿吸音板15tVP

外部仕上げ

屋根――勾配屋根：コンクリートスラブ金ゴテ押さえのうえ沖縄在来赤瓦葺（一部窯変）漆喰押さえ
フラット屋根：コンクリートスラブ金ゴテ押さえのうえアスファルト防水層 断熱材35t敷込み
外壁――腰部：100角はつりタイル・ボーダータイルℓ=200貼り
上部：47角モザイクタイル貼り
外まわり建具――アルミサッシ（シルバー），アルミシャッター
外構――中庭の床：から練浸透性モルタルのうえ300角琉球石灰岩敷，赤瓦こば立て敷，100角異型CB敷
中庭のヒンプン：琉球石灰岩野面あいかた積み，漆喰シーサー

空調設備

空調方式――単一ダクト＋FUC方式
熱源――氷蓄熱方式（空冷チラー）
制御方式――ビルマルチ方式

衛生設備

給水――上水・中水利用（加圧ポンプ式）
給湯――局所式（電気湯沸器）
排水――自然流下方式（地上部），ポンプアップ方式（地下部）

電気設備

受電方式――高圧受電3ϕ3W6.6kVA
設備容量――1250kVA（3ϕ），450kVA（1ϕ）
予備電源――ディーゼル発電機300kVA

防災設備

消火設備――スプリンクラー，屋内消火栓，粉末消火器，イナージェン消火設備
排煙装置――機械排煙，自然排煙
その他――火災報知設備，誘導灯，非常放送設備，非常照明
昇降機――油圧式11人乗 45m／分×1基（乗用），ロープ式11人乗 90m／分×2基（乗用），ロープ式2500kg45m／分×1基（荷物用）
特殊設備――舞台機構設備，舞台照明設備，舞台音響設備

利用案内

開館時間――午前9時～午後5時（常設展示室への入室は午後4時30分まで）
休館日――月曜日（祝祭日の場合は開館）・年末年始（12月29日～1月3日）
入館料――大人：個人300円・団体240円（20人以上）
小人・学生：個人150円・団体100円
電話――(098) 997-3844
交通――那覇市中心部より約22km。那覇バスターミナルで「糸満」行き乗車，糸満バスターミナルで「玉泉洞」行きに乗り継ぎ「平和祈念公園前」下車